

第1回田原市津波防災地域づくり推進協議会議事概要

- 日時：平成27年8月5日（水）午前10時30分～12時08分
 - 場所：田原市役所6階防災センター
 - 会議内容
- 《市長挨拶》

山下政良市長：昨年11月に愛知県建設部から津波浸水想定が公表された。また市では昨年度、田原市南海トラフ地震被害予測調査を実施した。被害想定等、大変厳しい状況の中、市では、自然災害から犠牲者ゼロを目指し、「できることから一步一步着実に」を合言葉に、市民、自主防災会やコミュニティ、学校、企業等の協力を得ながら、防災・減災対策に取り組んできた。

津波防災地域づくりは、最大クラスの津波から「なんとしても人命を守る」という考え方で、ハード・ソフトの施策を総動員させる「多重防御」の発想により、関係機関との連携のもと、地域活性化の観点も含めた総合的な地域づくりの中で津波防災を推進することとなっている。

皆様の貴重なご意見やご指導をいただき、津波災害からの犠牲者ゼロを目指し、津波防災地域づくりを進めていきたい。

《会長挨拶》

浅野純一郎会長：田原市は田園地域に居住する特徴があり、津波の危険性があるのも田園地域であることから、既存の推進計画と異なった内容になるのでは。推進計画というのは、安心してそこに住み続けていくためにはどうしたらよいかという、正に街づくりの根幹に直接係わることであると思う。

《議事》

- 1 田原市津波防災地域づくり推進計画の策定について
 - (1) 津波防災地域づくり推進計画の策定について
 - (2) 田原市の津波被害想定について
 - (3) 田原市のこれまでの津波対策について
 - (4) 田原市の地域特性について
 - (5) 脆弱性評価について
 - (6) 今後のスケジュールについて

《主な発言内容》

竹下康則委員：推進計画の区域はどこか、また、津波からの犠牲者ゼロというのは市民を対象としているのか、それとも田原市の滞在者全てを対象としているのか。

事務局：計画の範囲は、市内全域を対象とし、犠牲者ゼロというのは、市内に

お見えの方を含めた全ての方を対象とする。

浅野純一郎会長：人的被害の数字は、例えばサーファーの人などが、入っているか。設定された時間からいうと入っていないか。

事務局：入っていない。

浅野純一郎会長：今の季節で週末の昼だとすると、もっと酷い事になるかも知れない。

高瀬 勲委員：津波被害想定では、朝や夕方が多いが、夜だった場合はもっと被害が多くなるのか。

事務局：早朝は、まだ人が動き出す前を想定をしており、夜については早朝に近い条件である。

鈴木 博委員：田原市については、津波対策に関してソフト面は充実していると感じるが、汐川など老朽化した河川・海岸堤防の整備、赤羽根漁港・川尻地区の津波防護施設の整備、県道城下田原線の整備、これらハード整備について検討を。

高瀬 勲委員：内陸部への津波浸水を防ぐため、国道42号と「ぼた山」を合わせた複合整備の早期着手を。

小久保忠廣委員：廃校となった伊良湖小学校に代わる新しい避難場所設置の検討を。渥美半島の先端では、道路が寸断されると孤立してしまうので、伊良湖港を利用した物資の海上輸送の検討を。

浅野純一郎会長：緑の防潮堤及び県道整備で津波の防御を図るのは非常に効果が大きい投資ではないかと思う。

山口 豊委員：津波対策は、ハード、ソフトのそれぞれについて、地域の実情を踏まえ、検討していくことが大切。老朽化した堤防・護岸については、点検をしており、汐川河口付近では、必要なところから補修工事等を実施する。田原海岸谷熊地区は、今年度から本格的に耐震対策工事を進めていく。城下田原線は、防災面も含めて嵩上げを検討中である。国道42号の嵩上げは、周辺の土地利用に与える影響が大きいので、関係機関と海岸防災林等を含めた対策の検討を進める。何らかの対策が必要という共通認識でいる。

佐守真人委員：被害が想定される赤羽根漁港について、今年度調査委託を出して一番効果的な防災対策を検討する予定。

山田俊郎委員：津波避難マウンドを整備する際に、そこから現状を報告できるような通信手段の確保を。また、阪神大震災のときに救援物資がたくさん来たが、実際には液状化のために輸送ができなかったので物流の確保を。

押田博樹委員：渥美火力発電所は耐震設計であり、かつ、想定津波高さに対しても十分な高さを有しており、かつ、非常食・飲料水の備蓄があることから「避難可能施設」であると思っている。このような「避難可能施設」の周知方法についても検討を。

事務局：現状は公共施設を避難施設等に指定をしており、地域の特性によっては公共的施設ということで指定している。中山地区、小中山地区の避

難施設については中山小学校を指定しており、お申し出いただいた内容については、今後協議等させていただき研究を進めていきたい。

高瀬 勲委員：渥美地域は農業用燃料タンクが非常に多く、火災の被害の可能性がある
るので対策を。

浅野純一郎会長：この脆弱性をどのように評価するか。時期によって非常に風の強い地
域であり、消火し辛く延焼も怖いのが、何か指標などを考えているか。

事 務 局：指標は難しい。ここでは火災の危険性があると記載しているが、タン
クの重油で火災が発生するのではなく、漂流物や瓦礫の火災から引火
することが考えられ、遮断弁などの対応策はあるが、脆弱性の評価を
いかに出していくかはなかなか難しいと感じている。できる限り現状
をお伝えしながら、対応策に結び付けていくことを考えている。

鈴木信昭委員：農業用燃料タンク等の火災は心配であるが、火災が起きなかったとき、
燃料は最終的に海に辿り着くので、オイルフェンスや油吸着マットな
どの保管場所や数等を把握しておくとうい。

藤井正剛委員：「犠牲者ゼロ」を目指して防災に取り組んでいるが、まだまだ課題が
多い。田原市だけではできないものがたくさんあり、道路整備につい
ては地域の活性化にもつながるので、今後とも協力を。

土方英二委員：保安林については、これまでも農業生産のために整備してきたが、過
去の地震でも、健全な森林は、津波の勢いを抑える効果があることが
わかっている。今後とも、しっかり取り組んでいくので、地域の皆様
のご協力をお願いしたい。

浅田和男委員：愛知県では地震防災に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、
「第3次あいち地震対策アクションプラン」を昨年12月に作成し、
地震からの県民の生命財産を守る強靱な県土作りを本県の地震防災の
目標と掲げ、地震に強い安全な愛知を目指して、対策に取り組んで行
くこととしている。地震により発生する浸水・津波に備え、河川堤防
や海岸堤防の耐震化等の推進などの対策を効果的に推進していく。

豊田慈證委員：津波の犠牲者のほとんどが要配慮者である。ディサービス等の利用者
の避難の際には、自動車を使用したり時間が掛かったりすることから、
地元の方との連携が大事。

○ 配布資料

- 1 資料 第1回田原市津波防災地域づくり推進協議会
- 2 田原市津波防災地域づくり推進協議会設置要綱
- 3 田原市津波防災地域づくり推進協議会委員名簿

参考1 田原市南海トラフ地震被害予測調査業務報告書概要版、地区別被害予測結果

参考2 愛知県津波浸水想定

参考3 津波防災地域づくりに関する法律三段表

参考4 地震・津波防災戦略 緊急地震・津波対策5箇年計画（アクションプラン）

参考5 田原市防災マップ